

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・デザイン	科目：	デザイン実践	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	デザイン実践（実教出版）		副教材	デザインの色彩（日本色彩研究所） 書体サンプル集（国際文化カレッジ）			

年間指導目標：

1. <デザインの重要要素>レタリング検定に取り組みながらタイポグラフィの知識と技術を身につける。色彩の基礎を学び色の三属性を理解し、丁寧な作品を制作するための技術も身につける。また、デザインへの関心を高め、デザインの構成要素を学ぶ。

2. <技法>デザイン用具を上手く使い、素材を扱えるよう、実際に作品を制作しながらデザイン技法を身につける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	レタリング技能、色彩と構成などのデザインの基本を身につけている。 また、デザイン用具の使い方、素材の取り扱いなど、基礎的なデザイン技法を身につけている。	習得した知識・技能をもちいて、レタリング技能検定に取り組んでいる。 また、適切なデザイン用具と素材を選び、みずからの作品を制作している。	表現のために必要であることを理解し、意欲をもって基礎的な知識と技能の習得に取り組み、作品制作に活かしている。

			評価方法							配当 時数
			a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学期	中 間 考 査	<レタリングと文字のエレ メントの理解> ①デザイン基礎の概要説 明・展開授業の説明、デザ インを学ぶために必要な事 柄 ②レタリングの基本、デザ イン用語・用具・用材・用 法の理解	(知)	レタリング及びタイポグラフィの基礎知識を学 ぶ。また、文字のエレメントや種類を理解する。	○	○				12
			(思)	レタリングの趣旨を理解して、骨格文字やスペー シング、拡大視写に取り組む。	○	○				
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に 作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	<文字と形態・構成、タイ ポグラフィの理解> フリーハンドによる字体表 現、拡大視写・演習 <技法> カッター等の用具を上手く 使用し、作品を制作する。	(知)	レタリング及びタイポグラフィの基礎知識を学 ぶ。デザイン技法のひとつであるモアレ現象を理 解する。	○	○				12
			(思)	それぞれの知識をデザインの形に表現できるか、 試行錯誤して形にする。	○	○				
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。また、丁寧に 作品に取り組む姿勢が身についている。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	<色彩と形態・構成> 色の分類と三属性、PCCSを中心 に色に関する基礎的な知識を身 につける。色彩の学習と並行して、 形態や構成の基礎を中心に学ぶ。	(知)	PCCSによる、トーンの概念の理解。 トーンのイメージと感情効果の理解。		○				16
			(思)	色を分析し、色の三属性を理解し、 作品に取り入れることができる。		○				
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。 また、丁寧に作品に取り組む姿勢が 身に付いている。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	<技法> スチレンボード等の素材を理解し 作品を制作する。	(知)	素材の特性を理解し、その加工法 を理解する。平面的な素材を工夫し、 立体的にするため、空間把握する。		○				16
			(思)	素材と加工法を理解し、立体作品 を制作する。それぞれの知識をデザ インの形に表現できるか、試行錯誤 して形にする。		○				
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。 また、丁寧に作品に取り組む姿勢が 身に付いている。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	<デザインの構成要素と技法> デザインの表現技法を中心に学ぶ。 <石膏によるハンスカルプチャー> 各種素材や加工技法を学び、造形 をする。	(知)	バランス・コントラストなどデザ インに含まれている要素同士の関 連性を理解する。素材の特性を理 解する。		○				22
			(思)	デザインをオリジナルなものにする ために、どこにポイントを置くかを 考える。どのような形がハンスカル プチャーに合っているのか考える。		○				
			(態)	積極的に意欲的に取り組んでいる。 また、丁寧に作品に取り組む姿勢が 身に付いている。		○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	工業・デザイン	科目：	工業情報数理	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書：	精選工業情報数理（実教出版）	副教材	30時間でマスターoffice2021（window s 11対応）				

年間指導目標：

1. 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解する。
2. 情報技術に関する知識と技術を習得する。
3. 工業の各分野において情報及び情報手段を主体的に活用して、協働で問題を解決する能力を身につける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	情報技術や数理処理に関する基礎的な知識を身につけ、それらの知識を概念的に理解し、調査や観察・演習を通して、それらを実際に活用できる技能を身につけている。	情報化社会における諸問題の解決方法を適切に判断し、情報技術や数理処理を活用して、論述や報告書の作成、グループでの話し合いや発表、作品の制作などの表現の能力を身につけている。	情報技術や数理処理に関する知識と技能を獲得したり、思考・判断・表現の力を身につけたりする学びに向かって意欲的に取り組み力や人間性を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	第1章 産業社会と情報技術 1節 コンピュータの構成と特徴	(知)	・情報・情報処理・データ・情報化社会などの用語を理解している。 ・コンピュータの構成要素をハードウェアとソフトウェアに区別でき、それぞれの特徴を理解している。	○	○			○	12
		第2章 1節 コンピュータの基本操作とソフトウェア 2節 ソフトウェアの基礎	(思)	・情報技術の進展にともない産業社会に及ぼす影響について、光と影の部分に関して思考・判断でき、自分の考えを表現できる。	○					
			(態)	・現代社会では、コンピュータがどのような特徴をもち、どのように利用されているかなどについて関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	
1 学期	期 末 考 査	第3章 プログラミングの基礎 1節 プログラム言語 第1章 2節 情報化の進展と産業社会	(知)	・機械語、アセンブラ言語、高水準言語について理解している。 ・身のまわりのどの機器にコンピュータが組み込まれ利用されているか、産業界のどの分野でコンピュータがどのように利用されているか調査を行い、まとめることができる。	○	○			○	12
			(思)	・機械語、アセンブラ言語、高水準言語の用途を判断し、適切な言語を選択できる。 ・コンピュータがパソコンだけでなく、制御や通信など多くの機器に組み込まれて活用されていることが考察できる。	○					
			(態)	・用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムのつくり方に関心をもち、また、コンピュータが回路や素子の構成に支えられ発達し、身のまわりのさまざまな機器やFA・OAに活用されていることに関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	

2 学期	中間 考 査	第3章 2節 プログラムの作り方 第6章 1節 データの表し方	(知)	・基本的なプログラムを作成し、実行する技能を習得している。 ・2進数と16進数について理解し、四則計算や変換・計算ができる。	○	○			○	16
			(思)	・インタプリタとコンパイラの違いを理解し、用途を考察できる。 ・10進数の構成から、2進数と16進数の構成が説明できる。	○					
			(態)	・用途に応じたプログラム言語の違いや、プログラムのつくり方に関心をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 ・2進数、10進数、16進数などに関心がある。					○	
2 学期	期 末 考 査	第3章 3節 流れ図とアルゴリズム 第6章 2節 論理回路の基礎1	(知)	・基本的なアルゴリズムを組み合わせて応用的なアルゴリズムを作成する知識を身につけている。 ・アルゴリズムと流れ図について理解し、これらを活用する技能を習得している。 ・基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコー	○	○			○	16
			(思)	・最適なプログラムを記述するために必要なアルゴリズムを考えて流れ図として表現できる。 ・基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 ・RS-FF、JK-FF、T-FF、D-FFの違いを考察できる。	○					
			(態)	・問題解決の処理手順であるアルゴリズムと、アルゴリズムを実現するための流れ図を描くことに興味をもち、意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。 ・基本論理回路とその応用回路、エンコーダとデコーダ、フリップフロップとカウンタなどに関心がある。					○	
3 学期	学 年 末 考 査	第6章 2節 論理回路の基礎2 第6章 3節 処理装置の構成と動作	(知)	・基本論理回路を用いて、半加算回路や全加算回路、エンコーダ・デコーダ・フリップフロップなどを構成する技能を習得している。 ・コンピュータに周辺装置について理解し、適切に接続する技能を習得している。	○	○			○	22
			(思)	・基本論理回路を用いた応用回路について、論理的に考察できる。 ・RS-FF、JK-FF、T-FF、D-FFの違いを考察できる。 ・コンピュータにおけるハードウェアの役割としくみを理解し、説明できる。	○					
			(態)	・基本論理回路とその応用回路、エンコーダとデコーダ、フリップフロップとカウンタなどに関心がある。 ・処理装置と周辺装置に関心がある。そして、上記の事項について意欲的に学習に取り組み、学習態度は真剣である。					○	
					合計					78

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン	科目：	産業技術基礎	単位数：	3	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	自作教材、プリント等を使用	副教材					

年間指導目標：
1、産業、工業、工芸製品制作に必要な、デザイン全般の基礎、基本を習得する。
2、産業、工業、工芸製品を制作する過程において機能、用途を含めたデザイン性を高める。
3、デザインへの興味関心を深め、広く社会に役に立つ製品制作が出来る能力を身につける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	デザイン活動が産業社会においてどのような役割を果たしているか理解し、社会に必要な技術の基礎・基本を身につける。	デザイン分野の現場で従事するために必要な技術・技能を確実に習得する。作品制作にあたり、創意工夫し丁寧に取り組む。プレゼンテーション能力を身につける。	実際に活用できるデザイン力と客観性を身につけ、積極的に社会と関わりながら取り組む力を身につける。提出期限を守る。

			評価方法							配当 時数
			a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	
1 学 期	中 間 考 査	・ 平面構成 用具理解するための課題 ・ 立体構成 紙による立体制作(基礎) ・ デッサン 鉛筆の使い方 基礎的描画法	(知)	・ 各用具の理解と、デザイン基礎技法の修得 ・ 用具や素材の特性の理解と、基礎造形 ・ 素描の用具と基礎技法の理解		○		○	○	18
			(思)	・ 用具の応用と、制作プロセスの理解 ・ 基礎的構成法と作品への応用力 ・ 陰影表現の理解と描写		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 安全に道具を使用して仕上げています。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。				○	○	
1 学 期	期 末 考 査	・ 平面構成 線と面による構成 ・ 立体構成 紙による立体制作(応用) ・ デッサン 素描の画面構成 透視図法の基礎	(知)	・ 画面構成と配色基礎の理解 ・ 紙の特性理解と応用的造形 ・ 透視図法の基礎と描画技法		○		○	○	18
			(思)	・ 線や幾何形体などの指定条件を生かしている。 ・ 紙の特性をアイデアに活かして造形できる。 ・ オブジェクトを透視図法を用いて描画できる。		○		○	○	
			(態)	・ 提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・ 安全に道具を使用して仕上げています。 ・ 取組が作品の完成度に反映している。				○	○	

2 学 期	中 間 考 査	・平面構成 イメージ構成	(知)	・色と形をイメージに合わせる発想技術 ・様々な質感の理解と表現力 ・複数のオブジェクトを用いた透視図法表現		○		○	○	24
		・立体構成 マチエール研究	(思)	・イメージに対して配色と構成を活かせる。 ・マチエールを発想で自由に変える事ができる。 ・より複雑な形態を図法を用いて描画できる。		○		○	○	
		・デッサン 透視図法の応用 複数のオブジェクト	(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・安全に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。				○	○	
2 学 期	期 末 考 査	・平面構成 イメージ構成	(知)	・より複雑な配色技術の理解 ・紙立体の質感を活かす造形 ・図法に則った描画と陰影や質感の表現		○		○	○	24
		・立体構成 マチエール研究	(思)	・構成を駆使した複雑なイメージ配色 ・個性ある質感を立体物に活かす発想力 ・複雑なオブジェクトを描き分ける描画力		○		○	○	
		・デッサン 透視図法の応用 複数のオブジェクト	(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・安全に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。				○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・平面構成 色彩構成(応用)	(知)	・色彩構成の基礎的応用力 ・立体表現の応用法 ・石膏像などの複雑なオブジェクト描画		○		○	○	33
		・立体構成 立体材料の応用	(思)	・イメージを色彩と構成で伝える事ができる。 ・立体造形での構成法と造形表現を理解している。 ・複雑な形状のオブジェクトを描画表現できる。		○		○	○	
		・デッサン 石膏像等	(態)	・提出期限内に課題提出の条件を満たしている。 ・安全に道具を使用して仕上げている。 ・取組が作品の完成度に反映している。				○	○	
									合計	117

東京都立八王子桑志高等学校 令和8年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	産業・デザイン・クラフト・システム情報	科目：	企業会計Ⅰ	単位数：	2	指導学年：	1
担当教諭：							
使用教科書	新簿記（実教出版）	副教材	反復式簿記問題集全商3級（実教出版）				

年間指導目標：

商業の見方、考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・簿記の定義、目的を理解し、知識を身に付けている。 ・簿記で学習する帳簿へ記帳方法、決算書等の作成方法を身に付けている。	・簿記の学習について、目的を理解し、企業の経営活動に関連づけて思考・判断してきちんと説明できる。	・簿記の学習にあたって、自ら学び主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価方法										配当 時数	
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度			
学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e		
1 学 期	中 間 考 査	第1章 簿記の基礎	(知)	・簿記の基礎的な知識を身に付けている。	○		○			12	
		第2章 資産・負債・純資産 と貸借対照表		・資産・負債・純資産・収益・費用の種類、貸借対照 表、損益計算書の構造や役割を理解している。							
		第3章 収益・費用と損益計 算書		・簿記を学ぶことの意義と必要性を考えることができ る。 ・資産・負債・純資産・収益・費用が何かを思考し、そ れぞれの区分を適切に判断できる。							
			(態)	・簿記の学習に興味を示し、学習しようとする態度がみら れる。 ・資産・負債・純資産・収益・費用、貸借対照表、損益 計算書について関心を示し、把握しようとする態度がみ られる。				○	○		
1 学 期	期 末 考 査	第4章 取引と勘定	(知)	・簿記上の取引の意味と仕訳の手順を理解している。	○		○			12	
		第5章 仕訳と転記		・仕訳帳と総勘定元帳の意味と記帳法を理解している。							
		第6章 仕訳帳と総勘定元帳		・試算表の意味と作成法を理解している。							
		第7章 試算表	(思)	・取引の分解と勘定記入、転記について適切に判断し、 正確におこなえる。 ・仕訳帳・総勘定元帳への記帳を適切に判断し、正確に おこなえる。 ・試算表の種類について思考し、適切に作成できる。	○		○				
			(態)	・貸借平均の原理について関心を示し、把握しようとする態度が みられる。 ・仕訳と転記に自ら進んで取り組もうとしている。 ・記録を正確に行うことの大事さに関心を示している。 ・試算表がなぜ必要か考え、その役割について関心を持ち、把握 するような態度を示している。					○	○	

2 学 期	中 間 考 査	第10章 現金・預金などの取引	(知)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形に関する基本的な内容とその記帳法を理解して基礎的な技術を身に付けている。 ・3分法による記帳法や仕入帳・売上帳、商品有高帳に関する知識とその記帳法を理解している。	○		○		16	
		第11章 商品売買の取引		(思)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引について、その記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	○		○		
		第12章 掛け取引			(態)	・現金・預金、商品売買、掛け、手形の取引に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。				
第13章 手形の取引										
2 学 期	期 末 考 査	第14章 その他の債権・債務の取引	(知)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関する基本的な内容とその記帳法を理解して、基礎的な技術を身に付けている。	○		○		16	
		第15章 固定資産の取引		(思)	・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等の記帳に関して、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し、表現する能力を身に付けている。	○		○		
		第16章 個人企業の資本の取引	(態)		・その他の債権・債務、固定資産、個人企業の資本、販売費及び一般管理費の取引等に関心を高め、その記帳処理の学習を積極的に進めようとしている。					○
第17章 販売費と一般管理費、税金の取引										
3 学 期	学 年 末 考 査	第18章 決算整理（その1）	(知)	・決算手続き、8桁精算表の意味を理解し、決算手続きに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・貸借対照表、損益計算書の作成方法を身に付けている。	○		○		22	
		第19章 8桁精算表		(思)	・なぜ決算整理を行うのか、なぜこのように整理仕訳を行うのかなどについて思考し、財務諸表を活用して企業の状況について判断し、決算結果を財務諸表に明瞭に表現できる能力を身に付けている。	○		○		
		第20章 帳簿決算	(態)		・決算整理が企業の経営成績にどのような影響を与えるのかに関心をもち、自ら考える態度を示している。 ・貸借対照表、損益計算書からビジネスの諸活動を把握しようとしている。					○
合計									78	